

新津市秋葉山のシダ植物

—残念！ 消え去った貴重なシダ植物の数々—

牧野 恭 次

新津市秋葉山で採集したシダ植物の標本は総数約50種類である。古いものでは1952年9月6日(昭和27年)のものから、1992年11月20日(平成4年)のものまで、この間10回ほど秋葉山に通った。鳥居周辺の藪の中に生育しているウラジロを初めて採集し、

感激したのは1957年1月6日(昭和32年)のことである。この山の地理的要因からみても、少なくないシダ植物の数である。温帯性シダが繁茂する中であって、典型的な表日本のシダが多数混在することは興味深い。

☆うか。埋立てて花壇を作る前に秋葉山の貴重な植物を充分調査してほしかった。これらの植物は新津市民のものだけでなく県民の大きな財産であったはずである。

気にかけていたホソバイヌワラビの学問上大切な問題は解析されずに消え去った。誠に残念なことをした。

(植物同好じねんじょ会員)

秋葉山で採ったシダ植物の主なものを温帯性、暖地性に分けると次のようである。

- 温帯性 — ヤマドリゼンマイ、オシダ、サカゲイノデ、ホクリクイノデ、カラクサイヌワラビ等
暖地性 — ベニシダ、トウゴクシダ、ウラジロ、オオベニシダ、コバノイシカグマ、イノデ、イワヒメワラビ、ホソバイヌワラビ、シケチシダ等

ホソバイヌワラビに関して気にかけていたこともあって、4年ぶり(1992)に秋葉山を訪れた。正面には大きな鳥居があり約20mほど石の階段を昇って本殿に連なっているが、階段を上らずにこの山の北側の裾野を歩いた。どこをさがしても4年前にあった小沢が見当たらない。それもそのはず、目的地である小さな沢が、すべて土砂で埋立てられて、斜面には芝の種子が吹きつけられていた。この小さな沢には、特に暖地性の貴重なシダが豊富に密生している唯一の場所であっただけに、衝撃は大きく、茫然と立ち止まってしまった。秋葉山を市民の憩いの場所とするならば、この小さな数本の沢を生かした公園づくりができなかったものかと怒りを覚える。市では基礎的な植物調

査を行った上でのことなのであろうか。暖地性シダはこの小さな沢でこそ最適の場として選び、繁茂してきた。この破壊された小沢は、もとの生態系にもどすことは不可能である。私にとって秋葉山は何の魅力もなくなった。山頂部は平に均されて花壇がつくられ、季節の花を咲かせ、多くの市民が訪れるであろうが、自然の貴重な植物が、その犠牲になって絶滅してしまったことを知っている人は何人いるか。野生の暖地性の貴重なシダ植物に配慮もせず埋立てて、植生を変えても良いのであろうか。後世の人達はここにウラジロ、コバノイシカグマ、イノデ、シケチシダ、ホソバイヌワラビなどの表日本の植物がかつて豊かに自生していたことを知っている人はいるであろう☆



かつての湿原に咲くクサレダマ
(1985年7月14日)
[平 慎三氏撮影]



秋葉山の小沢を埋めて建設された
自動車道(1991年11月19日)
この下には、秋葉山で唯一のミズゴケを伴う湿原があり、クサレダマ、ノハナショブ、コオニユリ、モウセンゴケ、カキランが生育していたが、現在では消滅している。

[平 慎三氏撮影]

私の標本庫にある秋葉山のシダをあげてみる。

トウゲシバ クラマゴケ スギナ ヤマドリゼンマイ ゼンマイ ウラジロ
クジャクシダ イワガネゼンマイ イワガネソウ コバノイシカグマ イワヒ
メワラビ ワラビ リョウメンシダ カラクサイヌワラビ サトメシダ トガ
リバメシダ (from.) ホソバイヌワラビ ヤマイヌワラビ エゾイヌワラビ
(var.) ヘビノネコザ オオサトメシダ (hybrid) シケチシダ ヤマヤブソテツ
ミサキカグマ オシダ ベニシダ トウゴクシダ (var.) オオベニシダ
ミヤマイクチシダ オクマワラビ アイノコクマワラビ (hybrid) ミゾシダ
ナライシダ シケシダ ホソバシケシダ セイクカシケシダ イヌガンソク
コウヤワラビ アイアスカイノデ イノデ ホクリクイノデ (hybrid) サカゲ
イノデ ハリガネワラビ アオハリガネワラビ (form.) ヤワラシダ ヒメシダ
シシガシラ トラノオシダ コクニワクリ ノキシノブ オシヤクジデング